

資料－１

札幌開発建設部 ダム事業費等監理委員会資料 ～幾春別川総合開発事業～

令和8年8月7日

国土交通省 北海道開発局

札幌開発建設部

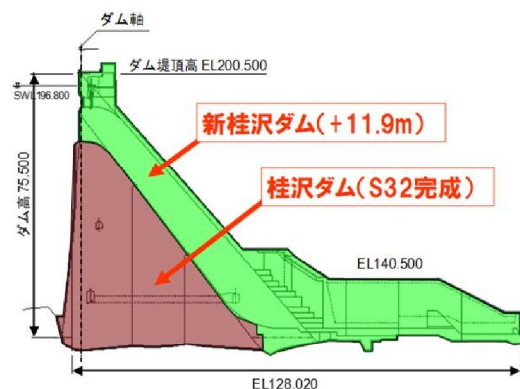
1. 幾春別川総合開発事業について
2. 事業の進捗状況について
3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象
4. 事業費の状況について
5. 事業の執行状況の透明化等について

1. 幾春別川総合開発事業について

事業の概要

幾春別川総合開発事業は、石狩川水系の幾春別川に昭和32年に建設された桂沢ダムを嵩上げする「新桂沢ダム」と、幾春別川支流の奔別川に新設する「三笠ぽんべつダム」から構成され、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、工業用水の供給、発電を目的としています。

- 目的 洪水調節（石狩川、幾春別川の洪水防御）
流水の正常な機能の維持
水道用水の供給（桂沢水道企業団：最大0.1m³/s）
工業用水の供給（北海道：最大0.149m³/s）
発電（電源開発株式会社：最大17,290kW）
- 諸元 新桂沢ダム：重力式コンクリートダム
高さ75.5m, 堤頂長397.0m, 総貯水容量1億4,730万m³
三笠ぽんべつダム：台形CSGダム
高さ53.0m, 堤頂長173.5m, 総貯水容量 862万m³
- 工期 昭和60年度～令和12年度
- 総事業費 約1,667億円
- 執行状況 令和7年度まで 約1,430億円（約85%）
令和8年度予算 約 58億円



新桂沢ダムのかさ上げ(イメージ図)

新桂沢ダム
(R6.5.15撮影)三笠ぽんべつダム
ダム完成予想図

石狩川流域図

事業の主な経緯

昭和32年度	・ 桂沢ダム完成
昭和56年度	・ 石狩川氾濫（台風12号により観測史上最大規模の大洪水）
昭和60年度	・ 実施計画調査着手（S60.4）
平成2年度	・ 建設事業着手（H2.6）
平成5年度	・ 環境影響評価書公示
平成6年度	・ 幾春別川総合開発事業基本計画策定（H6.8）、三笠ぽんべつダム工事用道路着手
平成13年度	・ 新桂沢ダム取水放流設備工事着手
平成16年度	・ 石狩川水系河川整備基本方針策定（H16.6）
平成17年度	・ 石狩川水系幾春別川河川整備計画策定（H18.3）
平成20年度	・ 幾春別川総合開発事業基本計画変更（第1回）（H20.11）
平成21年度	・ 検証の対象とするダム事業に選定（H21.12）
平成24年度	・ 「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」による事業再評価（H24.12） ・ ダム検証に係る国土交通省の対応方針の決定（継続）（H25.1）
平成26年度	・ 幾春別川総合開発事業基本計画変更（第2回）（H26.5）
平成27年度	・ 新桂沢ダム基礎掘削着手（H27.8）
平成29年度	・ 新桂沢ダム本体打設開始（H29.7）
平成30年度	・ 北海道胆振東部地震（H30.9） ・ 幾春別川総合開発事業基本計画変更（第3回）（H30.12）
令和3年度	・ 幾春別川総合開発事業基本計画変更（第4回）（R3.8）
令和4年度	・ 三笠ぽんべつダム基礎掘削着手（R4.9） ・ 三笠ぽんべつダム堤体建設第1期工事契約（R5.3）
令和5年度	・ 新桂沢ダム試験湛水開始（R5.11） ・ 新桂沢ダム竣工（R6.3）
令和7年度	・ 三笠ぽんべつダム本体打設開始（R7.4）

平成30年度事業費等監理委員会以降の審議状況

平成30年度まで

札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会

適切な事業実施の観点から、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について審議

令和元年度

幾春別川総合開発事業マネジメント委員会

北海道胆振東部地震等の自然現象、物価上昇等が生じている幾春別川総合開発事業における、事業マネジメントの一層の充実を図るため、新たに幾春別川総合開発事業マネジメント委員会を設置し、事業の進捗状況及び見通し、コスト縮減策について審議

令和2年度

委員会意見

事業の見通し及びコスト縮減について妥当性の観点から審議した結果、自然現象、現場条件の変更、経済・社会状況の変化の要因に起因して生じた個々の事象とそれらの事象による事業費や工期への影響等が理解できるものであることから、引き続き一層のコスト縮減をはじめとした事業監理の徹底を図ることとして、事業費の増加と工期の延伸については、やむを得ないとする。

令和3年度～

札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会

幾春別川総合開発事業マネジメント委員会の審議などの取り組みを踏まえ、事業監理の更なる強化を図り、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について審議

2. 事業の進捗状況について

新桂沢ダム_事業工程

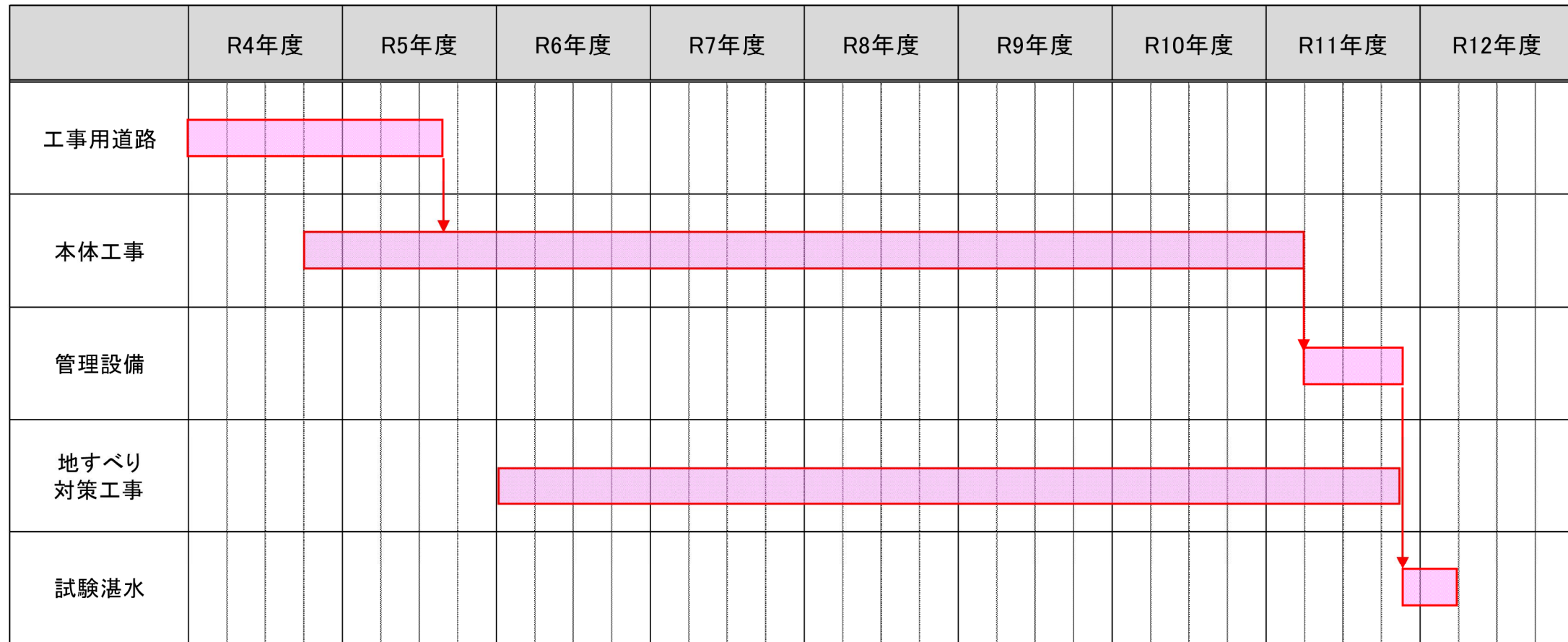
- R5年度までに本体工事、管理設備、地すべり対策工事等が完了し、R6年4月に新桂沢ダムの供用を開始しています。
- 今年度も、旧橋撤去、林道整備を行っています。

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
本体工事						
管理設備						
地すべり対策工事						
付替道路工事						
試験湛水						
旧橋撤去・植生回復・林道整備等						

※ 工程について、今後実施する調査設計協議や予算の制約、入札手続き等によっては、変更となる場合がある。

三笠ぽんべつダム_事業の進捗

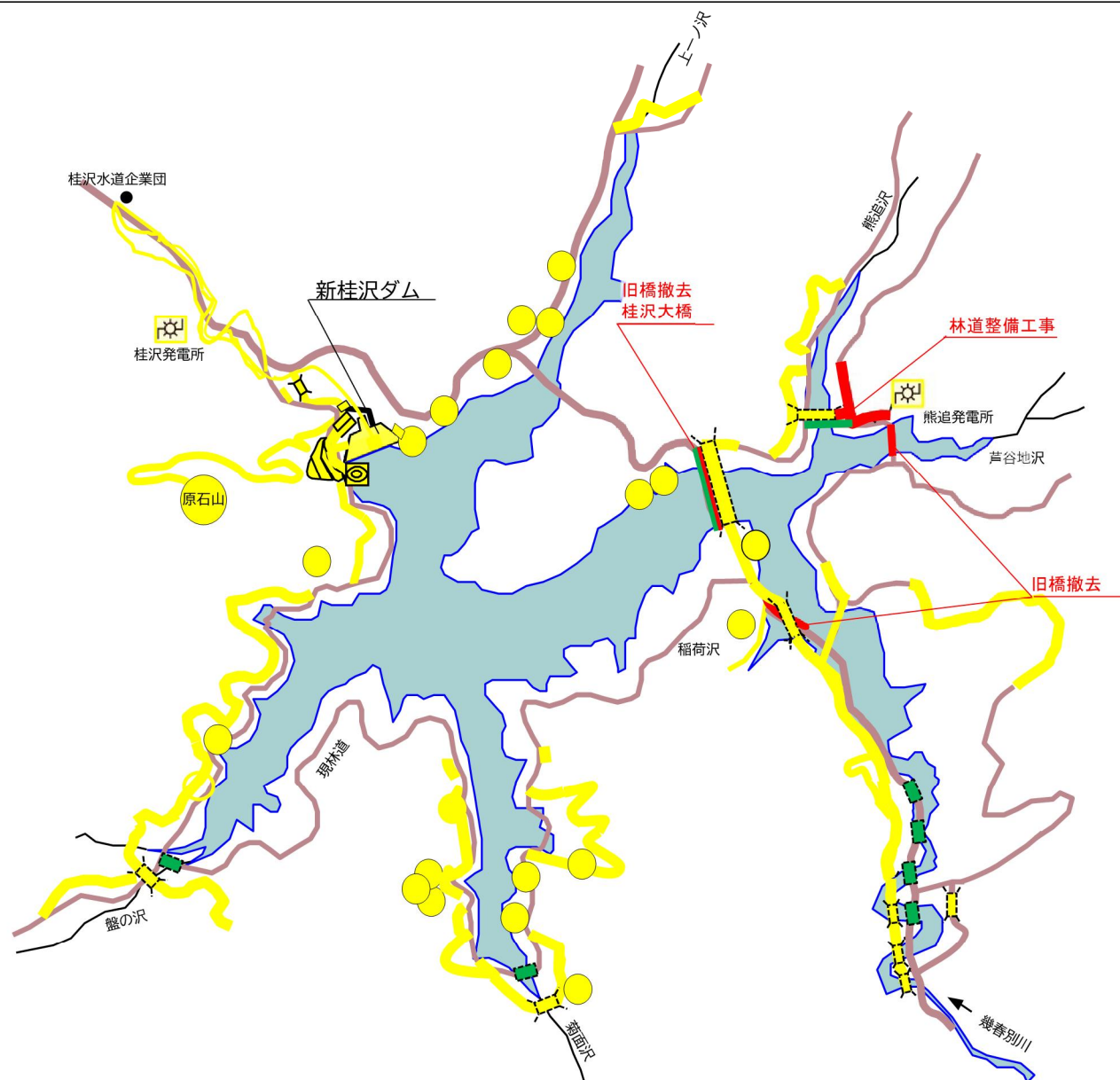
- 本体工事や地すべり対策工事を行っています。
このうち、本体工事は、令和6年度に堤体基礎掘削が完了し、令和7年度からは堤体打設を行っています。
- 令和12年度完成に向けて施工を実施しております。



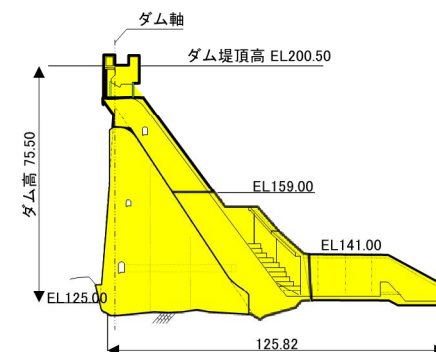
※ 工程について、今後実施する調査設計協議や予算の制約、入札手続き等によっては、変更となる場合がある。

令和7年度の工事概要_新桂沢ダム

- 旧橋撤去や林道整備工事を実施しました。
- なお、工事実施箇所において、工事着手前後におけるクマタカ等の希少猛禽類の営巣は確認されておりません。また、飛翔は確認しております。



新桂沢ダム標準断面図



新桂沢ダム下流面図



— : 現道

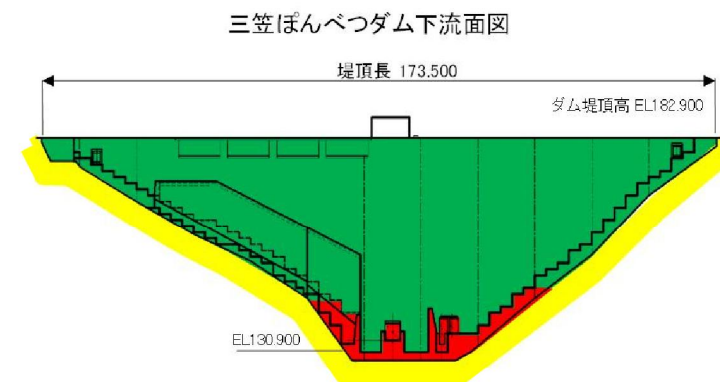
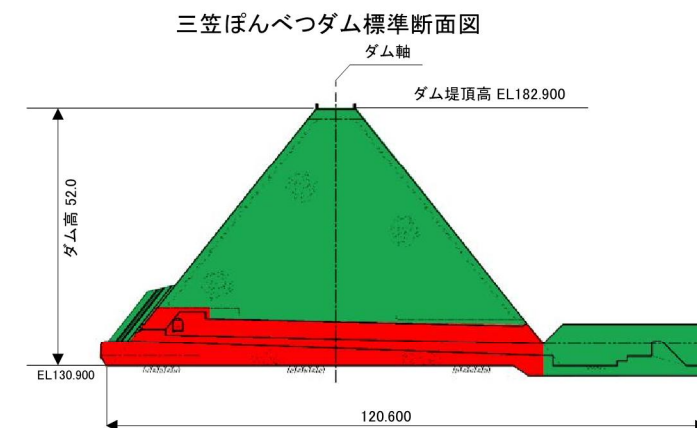
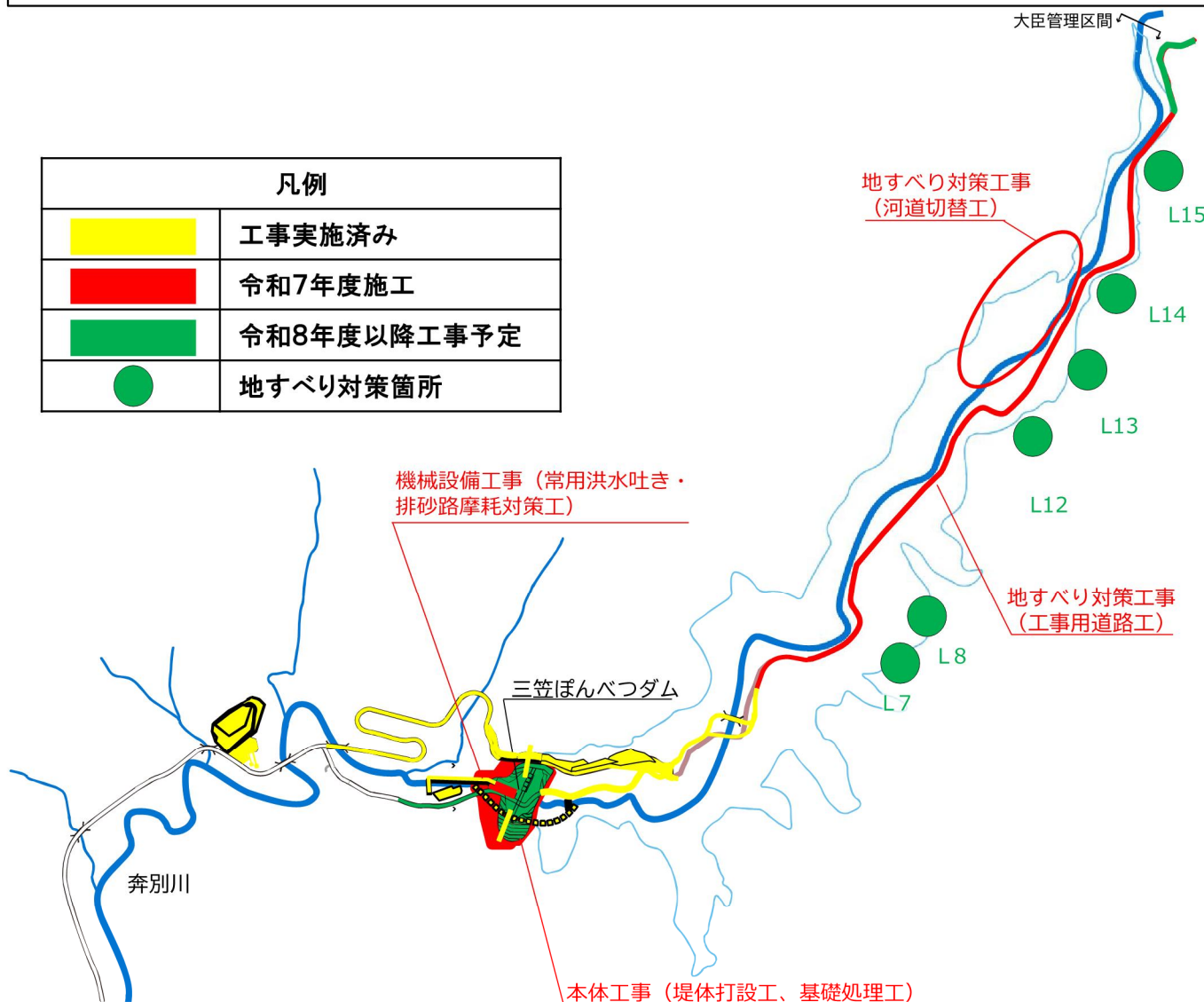
凡例

	工事実施済み
	令和7年度施工
	令和8年度以降工事予定
	地すべり対策箇所

令和7年度の工事概要_三笠ぽんべつダム

- 本体工事(堤体打設工や基礎処理工)、機械設備工事(常用洪水吐き・排砂路摩耗対策工)、地すべり対策工事(工事用道路工や河道切替工)を実施しました。
- なお、工事着手前後におけるクマタカ等の希少種猛禽類の営巣は確認されておりません。また、一部の工事実施箇所において、飛翔は確認しております。

凡例	
	工事実施済み
	令和7年度施工
	令和8年度以降工事予定
	地すべり対策箇所



総事業費及び残事業費

総事業費

総事業費	令和7年度まで	令和8年度予算	令和9年度以降の予算
約1,667億円	約1,430億円	約58億円	約179億円

※ 令和8年度予算は当初予算に基づく。

令和9年度以降の残事業費

新桂沢ダム	旧橋撤去工事等	約39億円
三笠ぽんべつダム	堤体工、地すべり対策工事等	約122億円
共通経費	工事諸費	約18億円
計		約179億円

※ 端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

R8年度予算

令和8年度予算

新桂沢ダム	旧橋撤去工事等	約3億円
三笠ぽんべつダム	本体工事、本体関連 工事等	約52億円
共通経費	工事諸費	約3億円
計		約58億円

※ 令和8年度予算は当初予算に基づく。

※ 端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

R8年度工事予定について_新桂沢ダム

- 令和8年度は、旧国道橋撤去と林道整備工事を行う予定です。

【新桂沢ダム】



— : 現道

凡例	
	工事実施済み
	令和8年度施工
	令和9年度以降工事予定
	植生等実施箇所
	地すべり対策箇所

R8年度工事状況_旧橋撤去工事

- 不要となった旧橋撤去(桂沢大橋)を引き続き実施します。



R8年度工事状況_林道整備工事

- 林道の整備工事を実施します。



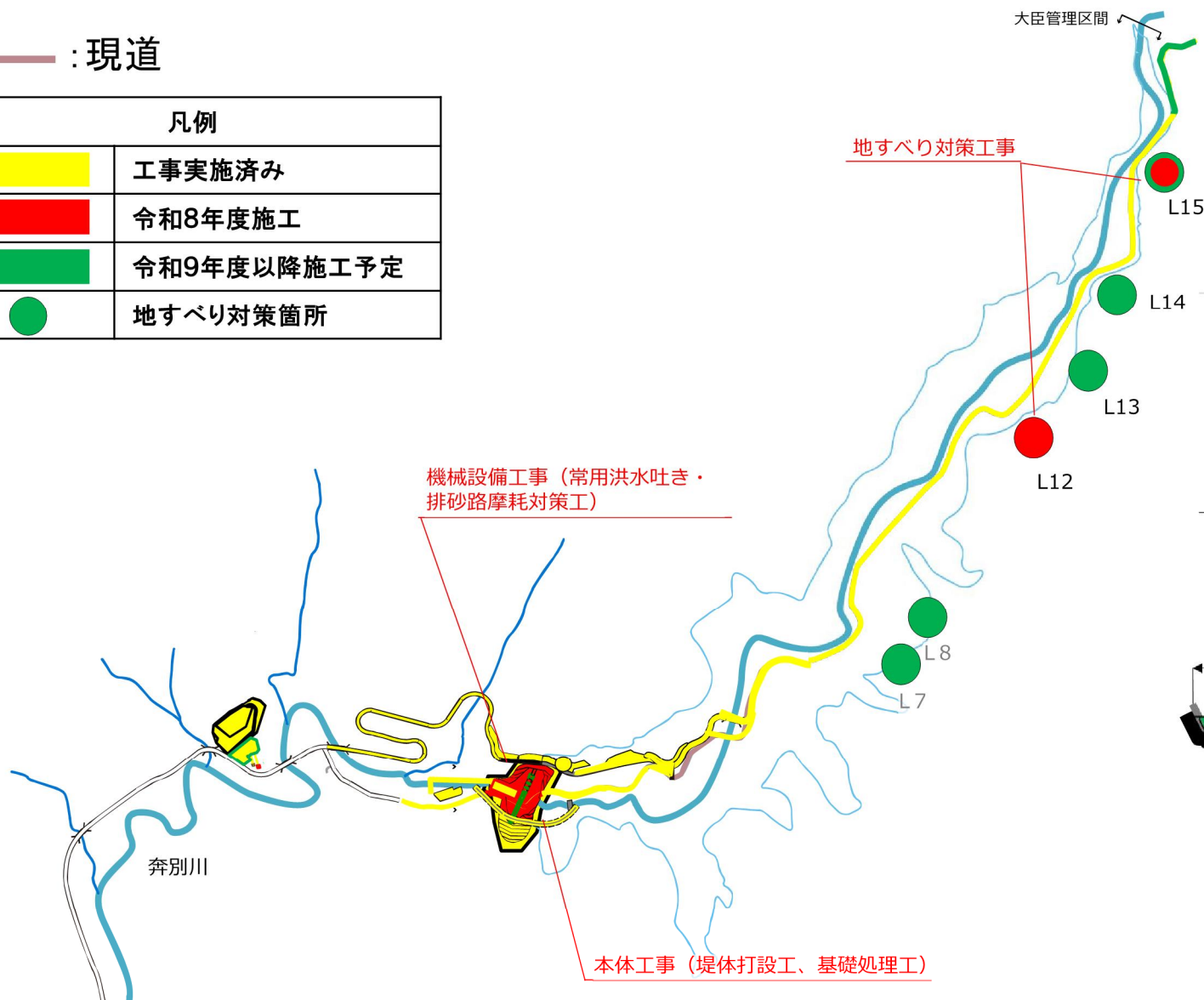
R8年度工事予定について_三笠ぽんべつダム

- 令和8年度は本体工事（堤体打設工や基礎処理工）、機械設備工事（常用洪水吐き・排砂路摩耗対策工）、地すべり対策工事などを行う予定です。

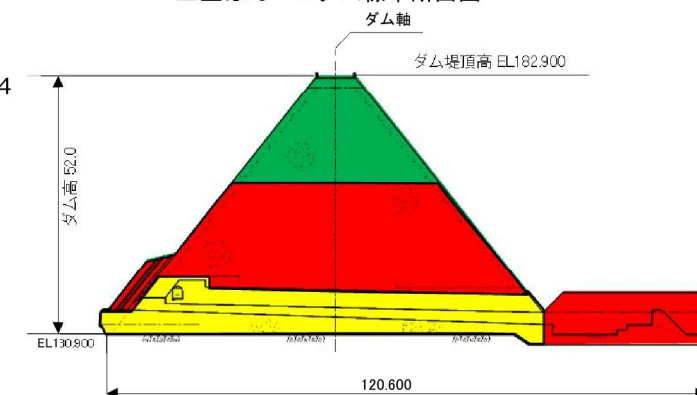
— : 現道

凡例

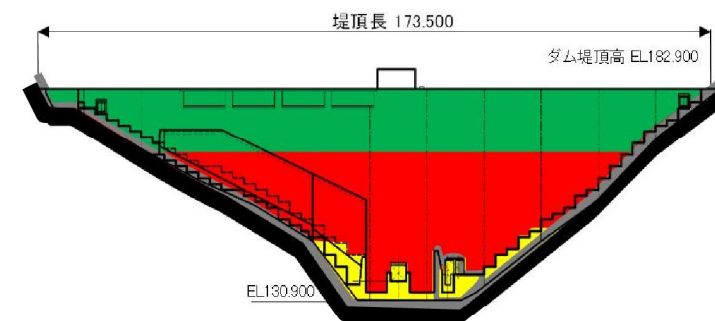
	工事実施済み
	令和8年度施工
	令和9年度以降施工予定
	地すべり対策箇所



三笠ぽんべつダム標準断面図



三笠ぽんべつダム下流面図



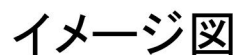
R8年度工事状況_本体工事(堤体打設工)

- 堤体打設工 : コンクリート・CSG打設

上流より(R8.6撮影)

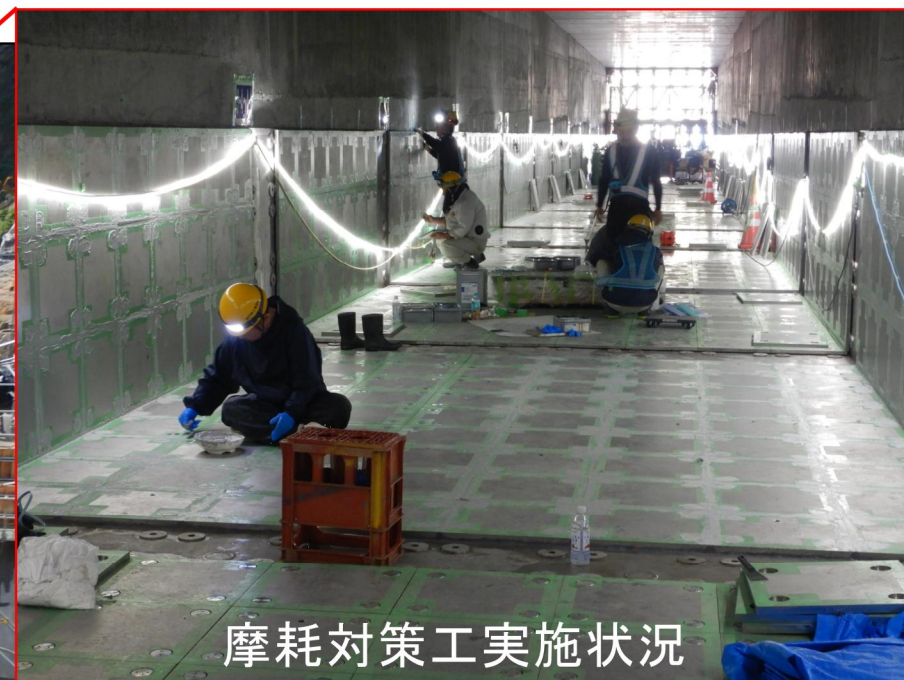


- ※基礎処理工とは：基礎岩盤の細かい割れ目からの水の浸透を防ぐため、岩盤の中にセメントミルクを注入し、貯水池からの水の浸透を防ぐ処理を実施します。



R8年度工事状況_機械設備工事(常用洪水吐き・排砂路摩耗対策工)

- 摩耗対策工(常用洪水吐き・排砂路) : 一式



- 地すべり対策工事を行うための、伐開工を実施中



3. 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

希少猛禽類の影響について

取扱注意

【R8年7月31日時点情報】

・希少種猛禽類について7月24日に調査した結果、オジロワシの営巣やクマタカ等の希少猛禽類の飛翔が確認されました。引き続き調査を実施し、必要に応じ営巣環境に配慮した施工を行います。

※希少野生動植物種等に関する情報のため一部非公表としています

工事用道路の変状について

・4月27日に現地確認したところ、三笠ぽんべつダムの工事用道路で法崩れを確認しました。今後対策工法の検討及び事業費への影響の確認を行います。

— : 現道

凡例	
	工事実施済み
	令和8年度施工
	令和9年度以降施工予定
	地すべり対策箇所

三笠ぽんべつダム

大臣管理区間

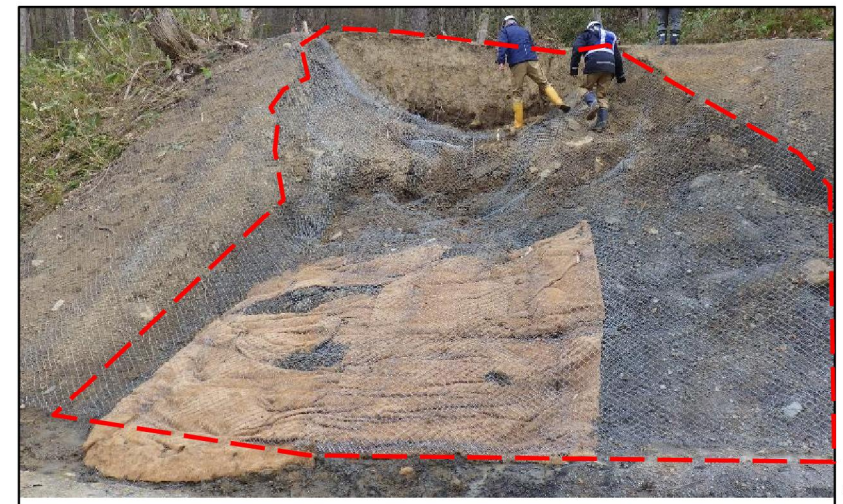
地すべり対策工事

一部法崩れ発生箇所

機械設備工事（常用洪水吐き・
排砂路摩耗対策工）

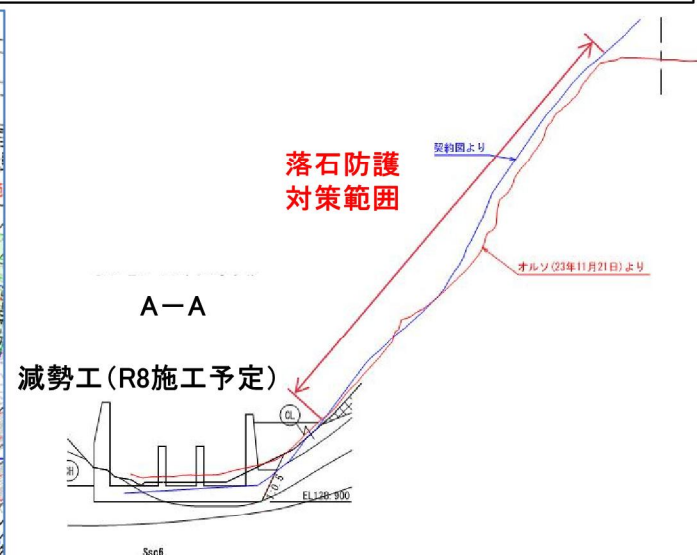
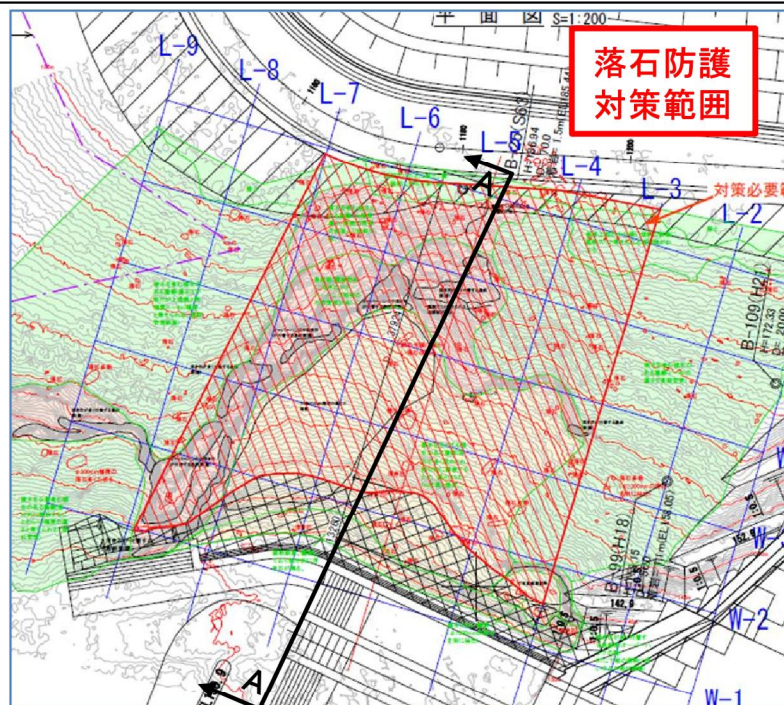
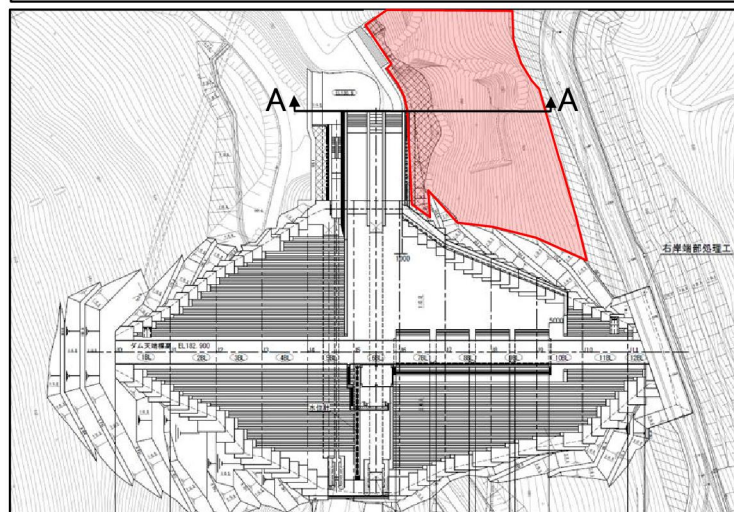
本体工事（堤体打設工、基礎処理工）

奔別川



三笠ぽんべつダム 落石防護対策について

- 令和7年8月、減勢工右岸背面の法面において小規模な落石が確認されました。
- 減勢工施工時の安全確保のため、当該法面の詳細調査を行った結果、落石防護対策が必要となりました。このため、約4億円の増となる見込みです。



	安定した斜面だが落石が分布 →落石・浮き石処理が望ましい
	安定した斜面だが落石が分布 →落石・浮き石を確実に処理
	オーバーハング等の不安定部 が分布→斜面全体の安定化処 理が必要



三笠ぽんべつダム 打設工程の遅れについて

- 令和7年度は常用洪水吐や排砂路等構造物周辺の施工効率が低下したことなどにより、堤体打設に約2ヶ月の工程遅延が発生している状況です。
- 打設工法の工夫や打設時間の増大により工程の回復を進めております。

【当初計画】

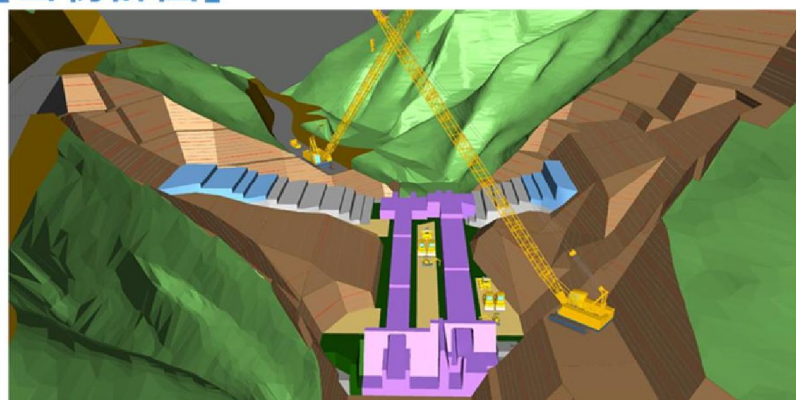


図-1 R7年度施工範囲(当初)

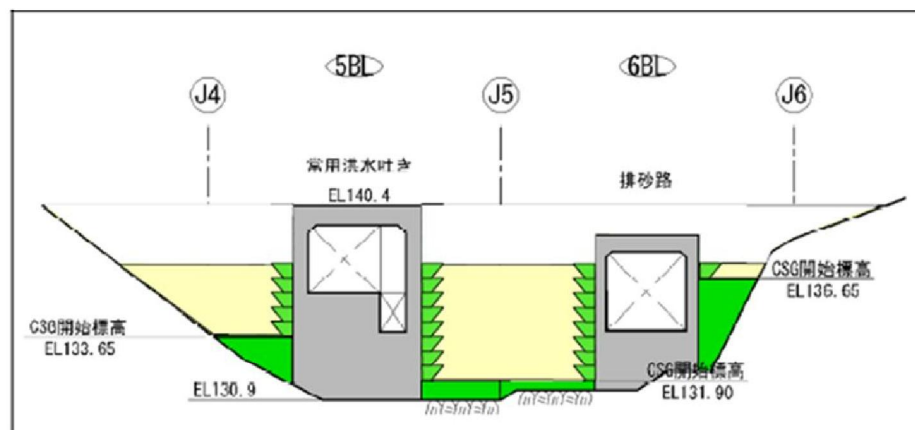


図-3 R7年度施工範囲(当初)

凡例	
	構造コンクリート
	内部コンクリート
	CSG

【実績】



図-2 R7年度施工範囲(実績)

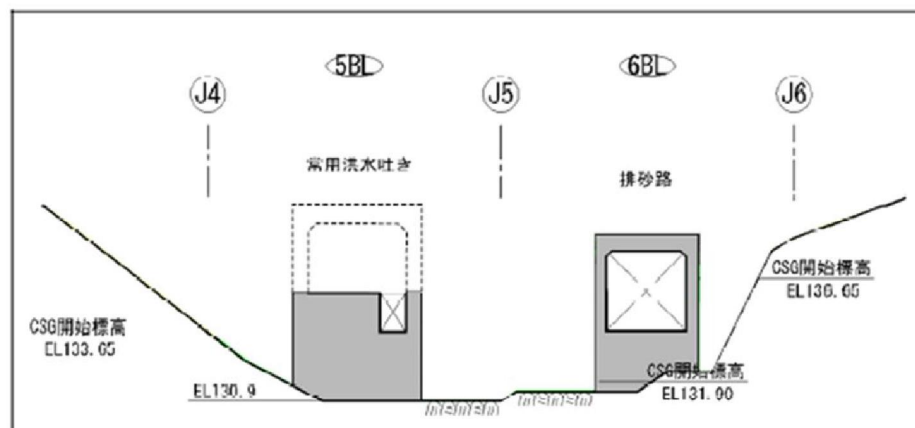


図-4 R7年度施工範囲(実績)

不確定要素について

- 事業費の増額要因である様々な不確定要素に対して、今後も留意しながら事業を進めます。

■ 自然現象による不確定要素の事例



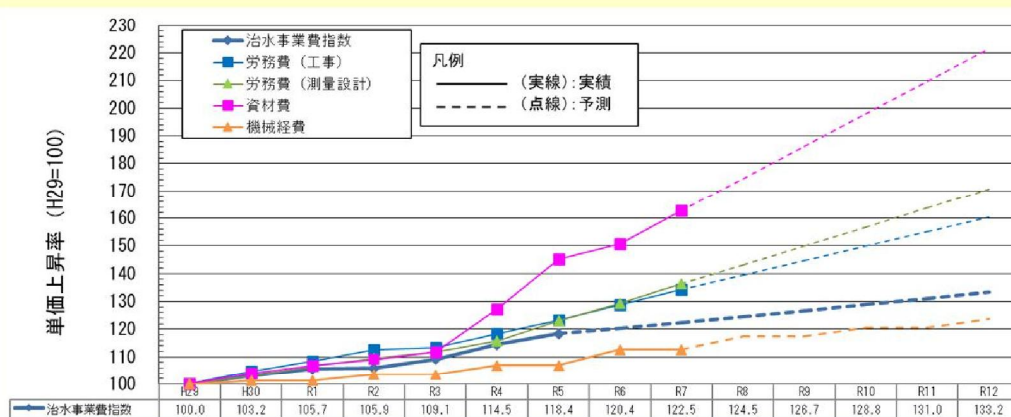
大雨による道路法面の小規模崩壊 等

■ 現場条件の変更による不確定要素の事例



地盤条件による、グラウチング範囲や施工量の変更 等

■ 社会状況の変化による不確定要素の事例



想定していた以上の物価上昇 等

■ 試験湛水による不確定要素の事例



貯水池周辺地すべりブロックや斜面の変状 等

4. 事業費の状況について

本事業の状況について

- 総事業費約1,667億円の内、令和9年度以降の事業費は約179億円ですが、今回三笠ぽんべつダムの落石防護対策により、約4億円の増額が見込まれたものの、これまでのコスト縮減により、第4回計画変更(R3.8)以降の増減額を合算すると約17億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっています。
- 今後新たなコスト縮減対策として、他ダムで実績のある技術等の適用を検討するとともに、今後、新たに開発される新技術についても随時、本事業における適用を検討し、引き続き、コスト縮減に努めてまいります。
- 事業費・工程に影響を与える可能性のある事象について精査を進めるとともに、今後の物価上昇等の不確定要素に注視し、事業費および工程の監理に努めます。

第4回計画変更(R3. 8)後の事業費増減

- 総事業費約1,667億円の内、令和9年度以降の事業費は約179億円です。
- 第4回計画変更後に下表の通りコスト増減がありましたが、これまでの増減を合算すると約17億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっています。

コスト縮減の見通しが立っているもの

	項目	理由	減額	備考
新桂沢ダム	地すべり対策工 (1-1B,1-5大 等)	- 関係機関等により土砂を確保できたため。 - 関係機関協議によりダム湖水位を低下でき捨石から土砂へ材料を変更できたため。	約29億円	R5報告済
		当初想定していた土取場の土質が盛土材に適さなかったことから、採取箇所が変更となりコストが増となった。(2億円増)等		R6報告済
	原石山工事用 道路撤去	- 撤去予定であった工事用道路を他機関が有効活用するため、撤去費用を減額 - 撤去範囲にかかる協議がまとまったため。 等	約8億円	R5報告済
	仮設備基礎の 有効活用	仮設備の基礎コンクリートを利活用することで、撤去する費用を削減 等	約2億円	R5報告済
	地すべり対策工(2-19等)	試験施工により、想定よりも安価な工法で施工できたため。等	約6億円	R5報告済

増額の見通しが立っているもの

約45億円減

	項目	理由	増額	備考
新桂沢ダム	付替国道	R3発生の斜面変状により、対策費用の計上	約5億円	R4報告済
	補償工事	R6. 3発生の熊追沢補強土壁の変状により、対策費用の計上	約6億円	R6報告済
三笠ぽんべつダム	諸経費	諸経費率の改定に伴う増額	約10億円	R3報告済
	ダム本体工事関連	CSG超遅延剤の使用	約3億円	R7報告済
	落石防護対策	減勢工背面の落石防護対策費用	約4億円※	新規

約28億円増

合計17億円減

※金額については調査段階のものであり、今後変更となる場合がある。

5. 事業の執行状況の透明化等について

令和7年度の活動状況

●ダム見学会

概要：一般の方々に広くダム事業をご理解頂くため、見学会を開催し、普段立ち入ることの出来ない新桂沢ダムの監査廊や打設中の三笠ぽんべつダムをご案内した。

日時：令和7年 8月 2日(土)
10月18日(土)



新桂沢ダム監査廊内



三笠ぽんべつダム打設状況の説明

●ジオツアー

概要：三笠市と協力・連携し、博物館の見学を行い地層への理解を深めていただいたのち、ダムを作るために採石をしていた原石山とダム見学を実施。

日時：令和7年7月6日(日)



原石山見学の様子

●もみじ祭でのブース展示

概要：紅葉祭りでダム事業に関するパネル展示を実施。

日時：令和7年10月12日(日)



ブース展示状況